

一般国道55号 奈半利安芸道路 (奈半利～安田) に係る新規事業採択時評価

- ・南海トラフ地震発生時に住民の避難や緊急物資の輸送を支える「命の道」として機能する信頼性の高い道路ネットワークを形成
- ・物流拠点や空港からのアクセスが向上することで、高知県東部地域における産業振興や観光振興を支援
- ・高次救急医療機関への速達性・アクセス性の向上により、緊急搬送など医療活動を支援

1. 事業概要

- ・起終点：高知県安芸郡奈半利町字芝崎
～高知県安芸郡安田町東島
- ・延長等：4.0km
(第1種第3級、2車線、
設計速度80km/h)
- ・全体事業費：約260億円
- ・計画交通量：約8,000台/日



乗用車	小型貨物	普通貨物
約4,900台/日	約1,700台/日	約1,400台/日

2. 課題

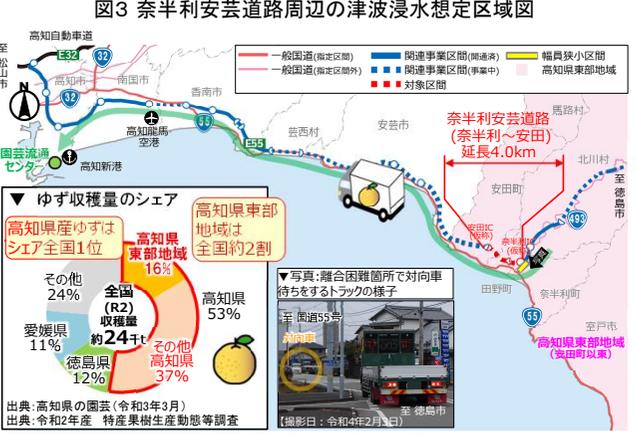
①南海トラフ地震に対する地域ネットワークの脆弱性

- ・当該道路に並行する国道55号、国道493号は南海トラフ地震の津波(最大津波高16m)により約8割が浸水し、緊急輸送道路の機能の確保が課題。(図3)



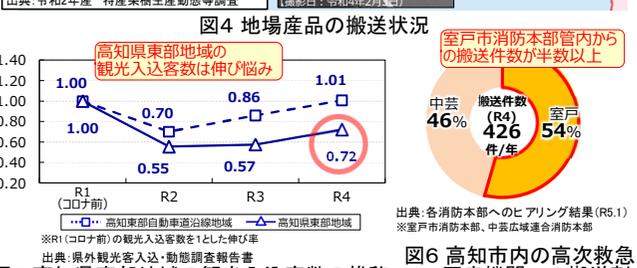
②地場産品の流通促進及び観光の促進による地域の活性化

- ・全国1位の収穫量を誇る高知県産のゆずは、高知市に位置する園芸流通センターで一元集荷・出荷。ゆずで有名な鳥路村や北川村など高知県東部地域からの出荷は全国の約2割を占めるが、幅員狭小による離合困難箇所により、円滑な出荷を阻害。(図4)
- ・高知東部自動車道沿線地域の観光入込客数は増加傾向。一方、高知県東部地域(安田町以東)への観光では、高知龍馬空港・高知新港からの移動に時間を要するため、観光客数が伸び悩み。(図5)



③高次救急医療機関へのアクセス

- ・高知県東部地域(安田町以東)には高度救急医療などを行える高次救急医療機関がなく、高知市の施設に依存せざるを得ない状況。(高知県東部地域(安田町以東)から高知市内の高次救急医療機関への管外搬送：年間426件)(図6)
- ・管外搬送の半数以上を占める室戸市消防本部内の大部分が高次救急医療機関の60分圏域外となる。(図7)



3. 整備効果 (WISNET2050との対応)

効果1 信頼性の高いネットワークの確保【◎】

- ・浸水しない信頼性の高いネットワークの構築により、持続可能な地域生活圏を維持
- 奈半利～安田間を移動する経路における津波浸水区間の延長
【現況】約3.7km(国道55、493号経由) → 【整備後】0km(奈半利安芸道路(奈半利～安田)経由)
(参考：貨幣換算)：津波発生時に津波による被災を回避できる効果：約844億円
津波による孤立の解消により生存率等が向上する効果：約366億円

効果2 産業振興や観光振興に寄与【◎】

- ・幅員狭小区間が存在する国道493号に代わり、当該路線が円滑な物流網を構築
- 奈半利～安田間を移動する経路における幅員狭小区間
【現況】1区間(国道493号経由) → 【整備後】0区間(奈半利安芸道路(奈半利～安田)経由)
- 高知龍馬空港からのアクセスを強化し、高知県東部地域の魅力を向上
- 高知龍馬空港～安田町以東(北川村役場)間の所要時間
【現況】80分 → 【整備後】38分(約42分短縮)
(参考：貨幣換算)：道路整備により所要時間のバランスが減少する効果：約1,866億円

効果3 速達性・アクセス性の向上により医療活動を支援【◎】

- ・高知県東部地域から第三次救急医療機関までの搬送時間短縮され、地域で生活が営める環境を維持
- 室戸市市場～高知医療センターの所要時間
【現況】93分 → 【整備後】51分(約42分短縮)
- 高知県東部地域(安田町以東)の第三次救急医療機関の60分圏域人口カバー率
【現況】0人(0%)
→【整備後】約1,500人(44%)
- 室戸市消防本部内の第三次救急医療機関の60分圏域人口カバー率
【現況】0人(0%) → 【整備後】約1,700人(12%)
(参考：貨幣換算)：病院への搬送性向上による救急救命率の向上効果：約391億円

■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

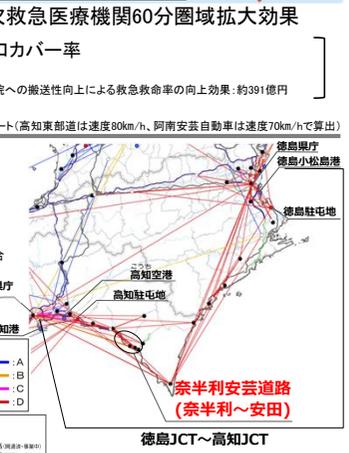
	B/C	EIRR ^{*1}	総費用	総便益
(参考)	1.1(0.8)	4.4%(2.6%)	12,927億円 ^{*2} (191億円 ^{*2})	14,159億円 ^{*2} (145億円 ^{*2})
	1.5(1.1) [2%] ^{*3}			
	1.9(1.4) [1%] ^{*3}			

注)費用便益分析結果は、徳島JCT～高知JCTを対象とした場合()書きの値は事業化区間を対象にした場合
※1: EIRR: 経済的內部收益率
※2: 基準年(令和9年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)
※3: 比較のために参考とすべき値として設定した社会的割引率

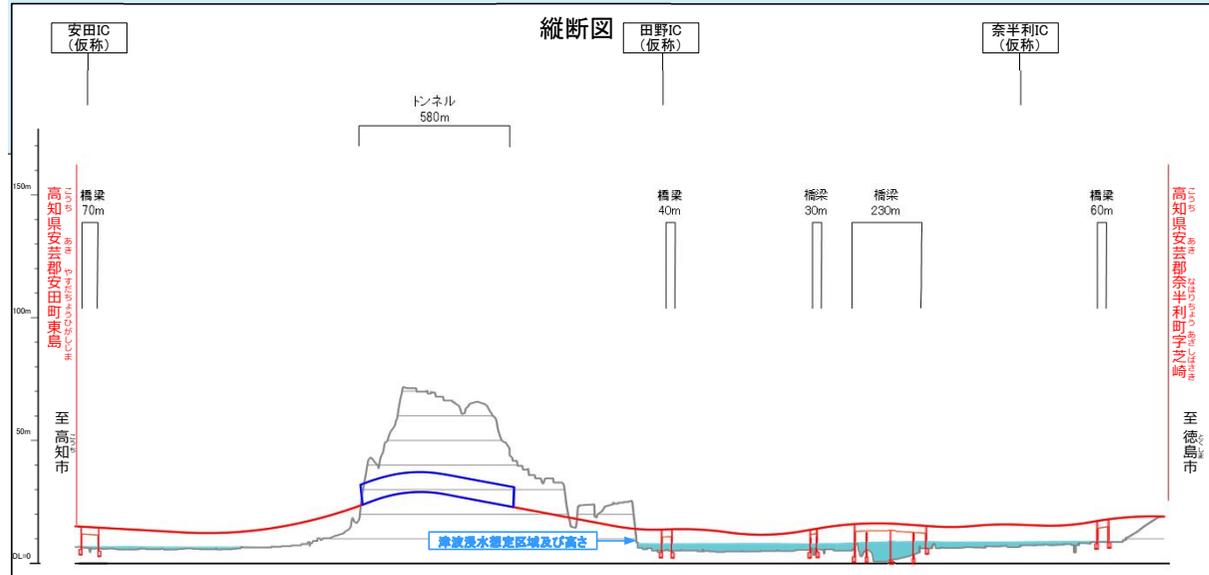
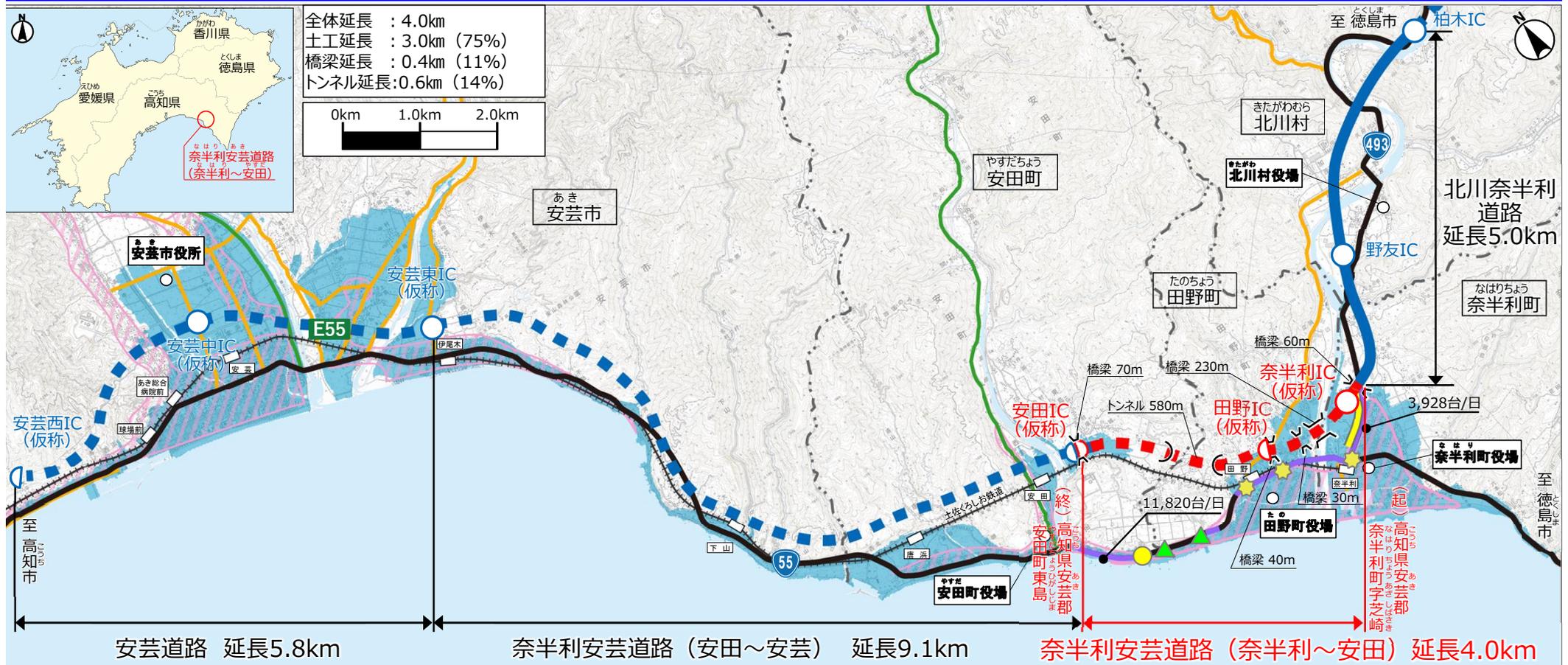
■道路ネットワークの防災機能評価結果

改善 ペア数	脆弱 度		累積脆弱 度の変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
60 (14)	0.93 [C]	0.84 [C]	881.26 (17.34)	0.18 (0.12)	0.13 (0.07)	○ (○)

注)上記の値は、徳島JCT～高知JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果※被災する地点の最寄リインターチェンジを視点とし評価



一般国道55号 奈半利安芸道路 (奈半利～安田) に係る新規事業採択時評価



凡例	トンネル構造	津波浸水想定区域
対象区間	通行止め箇所	津波浸水予測区間
高速道路	防災課題箇所	市町村境界線
一般国道	平面線形の厳しい箇所	車線数(2車線/4車線以上)
主要地方道	事故危険区間	交通量(集落)
一般都道府県道	幅員狭小区間	
橋梁構造	市街地(集落)	

